

様式11 指定管理者制度活用事業 評価シート

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	生田緑地、川崎市岡本太郎美術館、川崎市立日本民家園、川崎市青少年科学館	評価対象年度	令和2年度（令和2年4月～令和3年3月）
事業者名	・事業者名 生田緑地日比谷花壇・日比谷アメニス・東急ファシリティサービス共同事業体 ・代表者名 株式会社日比谷花壇 代表取締役社長 宮島 浩彰 ・住所 東京都千代田区内幸町1丁目1番1号  ※構成員：株式会社日比谷アメニス、東急ファシリティサービス株式会社 （令和3年4月1日付けで、東急ファシリティサービス株式会社から東急プロパティ・マネジメント株式会社へ商号変更）	評価者	建設緑政局緑政部生田緑地整備事務所長 市民文化局市民文化振興室岡本太郎美術館副館長 教育委員会事務局日本民家園長 教育委員会事務局青少年科学館長
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日	所管課	建設緑政局緑政部生田緑地整備事務所 市民文化局市民文化振興室岡本太郎美術館 教育委員会事務局日本民家園 教育委員会事務局青少年科学館

2. 事業実績

利用実績	<p>【生田緑地】利用者数：801,859人、駐車場利用台数：88,452台（内訳：東口駐車場：65,087台、西口駐車場：23,295台、生田臨時バス駐車場：70台）、東口ビジターセンター利用者数：176,095人、西口サテライト利用者数：8,447人</p> <p>【岡本太郎美術館】利用者数：59,049人</p> <p>【日本民家園】利用者数：68,267人</p> <p>【青少年科学館】利用者数：178,245人</p> <p>※緊急事態宣言に伴い施設の臨時閉鎖を下記期間で実施                  駐車場・東口ビジターセンター・西口サテライト：4/11～5/27、岡本太郎美術館・日本民家園・青少年科学館：4/11～5/31</p>
収支実績	<p>&lt;収入&gt;指定管理料：410,270千円、利用料金収入（駐車場）：30,862千円、事業収益（売店等）：9,083千円、自主事業収益（イベント等）：9,472千円、その他収入（協賛金等）：2,374千円                  計：462,061千円</p> <p>&lt;支出&gt;管理運営経費等：446,381千円 計：446,381千円</p> <p>&lt;収支差額&gt; 15,680千円</p> <p>※新型コロナウイルス感染症に係る指定管理料の増減要因については精査、協議中のため本評価シートでは未反映である。</p>
サービス向上の取組	<p>新型コロナウイルス感染症の影響下における新しい生活様式への行動変容が要請される中、順応的な管理運営により、次のとおりサービス向上の取組を行った。</p> <p>【感染症対策】                  マスク着用の徹底や入館時の検温などの呼びかけ、園内掲示板等での注意喚起などを行うとともに、除菌アルコールの設置ではアルコール過剰反応者に配慮し消毒液の成分表示を行うなど、利用者及びスタッフの安全・安心のためきめ細やかな対応・説明を行った。また、キャッシュレス決済導入の要望に対し、日本民家園ショップの物販でクレジット端末を導入し新型コロナ感染リスクの機会低減に努めた。</p> <p>【情報発信】                  緊急事態宣言の発令により、岡本太郎美術館が休館となった際には、HP上に自宅で館内を見たり、ワークショップを楽しめる「太郎VR美術館」コンテンツを開設すると同時に、Twitter広告を发出する取組を実施し、休館中にも関わらず多くのアクセス数と再開後の来館者増に繋がった。</p> <p>【商品開発】                  日本民家園では海外、遠方からの来園が規制され、来園者が減少し、お土産用途による利用増が見込めないことから、近隣の方に喜んでもらえる商品開発・展開へと方向転換し、水引や着物の端切れを利用したアクセサリ商品の開発や新規カプセルトイの充実により、商品の売上増加だけでなくコロナ禍の生活ではなかなか見つけにくい楽しみ方を提案した。また、伝統工芸館では、政府支給マスクの藍染体験プログラムを開発し200件以上の大好評を得た。</p> <p>【イベント協力】                  多摩区観光協会主催の大型イベント（ピクニックラリー、食の祭典）では、観光協会役員の立場で感染防止対策に係るアドバイス等を行いイベント成功に導いた。</p>

### 3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点	
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	8	4	6.4	
		利用者満足度は向上しているか				
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか				
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	6	3	3.6	
		当初の事業目的を達成することができたか				
	自然環境の保全	市民との協働により自然環境の保全が図られているか	8	4	6.4	
	魅力の向上	施設間の連携・多様な主体との連携により生田緑地全体の魅力の向上が図られているか	8	4	6.4	
		生田緑地全体広報が戦略的に展開され、魅力発信できているか				
	<p>(評価の理由)</p> <p><b>【利用者満足度】</b></p> <p>●利用者満足度を把握するため、四半期ごとのアンケート調査や常設アンケート調査を適切に実施した。日本民家園では、高齢者の来園が多いことから衛生管理の観点から常設アンケート調査を実施しなかったが、来館者の声を随時聞き取ることで利用者満足度の把握に努めた。新型コロナウイルス感染症の影響で前年度よりアンケート取得数は減少したが、キャッシュレス決済の導入希望の声に対応し、日本民家園ショップにおける物販ではクレジットカード端末の導入を実施し、現金取り扱いによるコロナ感染リスクの機会低減効果と利用者の支払決済手段の拡充による利便性の向上を促進するなど、来館者の生の声を拾い業務改善に努めた。</p> <p>●アンケート調査の利用者満足度では、令和2年度は平均で約94%の利用者の方から「とても満足した」、「満足した」との評価を得ており、高水準を維持している。(参考：平成30年度が約95%、令和元年度：約94%)</p> <p><b>【事業成果】</b></p> <p>●月次及び四半期ごとのセルフモニタリングを実施し、事業実施・自己点検・業務改善のPDCAサイクルの実施に努めた。下記「三年目の行動目標及び取組結果」では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、新たな事業の展開の検討・実施に至らない取組があったものの概ね事業目的を達成したものと評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ボランティアフェスタ第1回目の開催」の目標については、新型コロナ感染拡大によりボランティアフェスタは未開催となった。</li> <li>・「1組織の運営体制による横断的・効率的な運営の実践」の目標については、JV会議や研修等で施設間の情報共有等を綿密に行うなど横断的な管理運営を実施した。</li> <li>・「自主事業の検証とニーズ把握によるブラッシュアップ」の目標については、外部講師やイベント依頼先との意見交換により自主事業の検証を行い、新型コロナウイルス感染症の情勢を踏まえ、対策を施しながらイベントを行った。</li> <li>・「新たな地域連携のイベントや取組の展開」の目標については、専修大学ネットワーク情報部のプロジェクト「いろ色！自然たんけん隊」の実装の場として提供し、生田緑地ルールについての情報交換やイベントの広報協力を行うなど、近隣教育機関との新たな取組が展開された。</li> <li>・「東京オリンピック・パラリンピック成功への寄与」の目標については、事前キャンプを予定している英国代表チームを応援するため、市オリパラ推進室との連携により、装飾したテディベアを東口ビジターセンターに展示し、SNS発信を行った。</li> </ul> <p><b>【自然環境の保全】</b></p> <p>●植生管理計画や活動団体等の年間活動計画書を確認し、各団体と調整しながら管理作業を実施するとともに、生田緑地マネジメント会議、自然環境保全管理会議やばら苑プロジェクト会議を通じて、生田緑地ビジョンの実現に向けて諸団体との良好な関係の構築に努めた。</p> <p>●「生田緑地の環境を守るためのポスター募集」では、近隣小学校へ生田緑地での困りごとを手紙にして児童に配布するとともに一般向けの広報で募集し、同時に普及啓発をするため、応募作品のレプリカを東口ビジターセンターで公開した。また、「生田緑地のルール表記」では、子ども向けにひらがな版のルール一覧を作成するとともに、生田緑地憲章の「利用ルール」をわかりやすくまとめ、自然環境保全の普及啓発を行った。</p> <p><b>【魅力の向上】</b></p> <p>●岡本太郎美術館で開催された企画展「高橋士郎 古事記展」の開催時には、空気膜造形のバボットを制作会社より広報告知用として借り受け、東口ビジターセンターで展示した。同時にTwitterで情報発信を行った結果、バボット目当てに来館される方も見られ、写真スポットとして喜ばれるなど生田緑地全体の魅力向上に繋がった。</p> <p>●マネジメント会議の「おもてなしプロジェクト」として、向の岡工業高校との協働により長者穴口の看板製作・設置を行った。</p> <p>●生田緑地原産のアズマネザサを活用した竹細工(民具製作技術保存会製作)と伝統工芸館製の藍染作品を詰め合わせた「民家園福袋」を企画し、川崎市財政局募集のふるさと納税返礼品企画提案に応募し採用された。市民団体の活動意欲を高めつつ、除伐材を有効利用して、ふるさと納税につなげることにより生田緑地が一体となる効果を生んだ。</p> <p>●過去に取材依頼があった媒体などに対して、紅葉の見ごろ予測情報を積極的に情報提供し新聞等への露出機会を増した。各施設のイベント情報や四季折々の情報についても積極的にTwitterで発信し、フォロワー数が増加した。広報スタッフが市主催の広報研修に参加するなど市と連携を図りながら広報を行った。定期刊行物の「もりのにじ夏号」では、緊急事態宣言期間明けから間もないこともあり、コロナ禍においても楽しめる取組として、おうちで楽しめる生田緑地すごろくを企画し、利用者から好評を得た。</p> <p>●指定管理者の構成企業が東急系列である関係性を活かし、川崎市内の東急電鉄10駅に岡本太郎美術館や日本民家園の常設展・企画展ポスター(B1)を無料で掲出。文化芸術への関心が高い東急沿線住民の施設認知度向上に貢献した。</p>					

収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	8	3	4.8	
		支出に見合う効果は得られているか				
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか				
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	4	4	3.2	
		収入増加のための具体的な取組が為されているか				
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	4	4	3.2	
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
	(評価の理由)					
	<b>【効率的・効果的な支出】</b>					
	●支出経費実績(446,381千円)が当初予算(469,918千円)より縮減した要因の一つとして、緊急事態宣言に伴う施設閉鎖による光熱費減やサマーミュージアム等の一部業務の未実施等の新型コロナウイルス感染症による影響が挙げられるものの、施設運営全般において業務改善を行いながら効率的・効果的な支出に努めた。					
<b>【収入の確保】</b>						
●「駐車場の利用料金収入実績(30,862千円)」は、緊急事態宣言期間中の4/11から5/27まで臨時閉鎖を行ったことから、当初予算(33,950千円)を下回ったものの再開以降の6～3月までの収入は前年、前々年度より伸びている。「事業収益(売店等)実績(9,083千円)」は、コロナ禍による休園期間を活かし、日本民家園で手作りのアクセサリ類をはじめとした新商品を多数開発・販売するとともに政府支給マスクの藍染体験を企画し、当初予算(12,000千円)や、前年度収入(10,643千円)を下回ったものの前々年度収入(9,096千円)と同程度の収入を確保した。「雑収入(自主事業収益)実績(9,472千円)」は、生田緑地利用者の増加に伴い自動販売機の売上増に繋がり、当初予算(12,000千円)を下回ったものの前年度収入(9,074千円)や前々年度収入(8,447千円)を上回った。「企業協賛金等その他収入実績(2,374千円)」は、サマーミュージアム等の大型イベントが実施できないなか企業協賛金の確保に努め、当初予算(1,700千円)を上回った。収入全体では、予算(469,920千円)と比較し、実績(462,061千円)を下回ったものの、商品企画等の創意工夫による具体的な取組によって、新型コロナウイルス感染症による施設閉鎖等の外的要因を除くと、計画以上の収入確保ができたものと評価できる。						
<b>【適切な金銭管理・会計手続】</b>						
●納品書・請求書等の伝票管理を適切に行っており、報告書には支出費目ごとの内訳や月別・施設別の事業収支が添付されている。また、警備会社の入金オンラインシステムを導入し、各館の観覧料を貯め置きしないよう入金ルールを徹底している。また、両替金種・数量を各館共有のスプレッドシートを用いてコントロールを行い、円滑かつ正確な入金及び両替管理を行っている。						

サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	6	4	4.8
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	3	3.6
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
	利用者の意見・要望への対応	業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか	6	4	4.8
		利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか			
		意見・要望の収集方法は適切だったか（十分な意見・要望を集めることができたか）			
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	<p>（評価の理由）</p> <p><b>【適切なサービスの提供】</b></p> <p>●日本民家園では定時消毒の導入、パスポート販売の促進による現金收受機会の低減、正門導線レイアウト及びスタッフ配置変更など感染予防対策を徹底しながら施設運営を行い、感染対策がしっかりしていて安心だったという声が複数あった。また、岡本太郎美術館では、電気代の効率化とされていた温冷水設備の運用方法の見直しを行い、館内の温度調整による快適性の向上に努めた。自主事業では、母の塔広場において「TAROマルシェ」を開催し、発表・活動の場が狭められているアーティストたちに発表の場を設けると同時に、西口広場利用者や来館者の満足度を上げる試みを実施した。</p> <p>●事業計画書や自主事業実施企画書等で計画していたイベント等について、新型コロナウイルス感染症の情勢を踏まえ、自主事業の開催可否や利用制限等を慎重に判断しSNS等で適時、十分に情報発信を行った。</p> <p><b>【業務改善によるサービス向上】</b></p> <p>●実施計画どおりにサービスを提供できなかった場合は、毎月・4半期ごとのモニタリングで確認したうえで、その原因を追求し、次回以降はその改善点を踏まえて実施するよう努めた。日本民家園では、閉園期間中にスタッフ全員で園内植栽管理業務に取り組んだ結果、利用者に植栽に関する情報提供ができるようになった。</p> <p><b>【利用者の意見・要望への対応】</b></p> <p>●四半期ごとのアンケート調査等において利用者ニーズの把握に努めた。キャッシュレス決済の導入希望の声に対して、日本民家園ショップにおける物販ではクレジット端末を導入した。</p> <p>●利用者からの苦情や要望の問合せに対して、迅速かつ適切に対応するとともに、状況に応じて速やかに市へ報告がなされた。毎月実施するセルフモニタリング等において苦情等の対応記録を市へ適切に報告された。</p>				

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員（人数・有資格者等）が必要な場所に適切に配置されているか			
	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか	6	3	3.6
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	2	3	1.2
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか（人員配置、マニュアル、訓練等）	4	4	3.2
		緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール（規則・マニュアル等）と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	4	3	2.4
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか			
	環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	4	4	3.2
<p>（評価の理由）</p> <p><b>【適正な人員配置】</b></p> <p>●緑地内各施設において適切な人員配置を行い、事業遂行に必要な体制確保に努めた。また、岡本太郎美術館では、新型コロナウイルス感染症拡大対応として、検温・手指消毒など新たな業務が発生したが、人員の再配置を行うことで増員せず適切な業務配分を行った。</p> <p><b>【連絡・連携体制】</b></p> <p>●各館の業務責任者や施設長等が参加する全体会議を定期的開催し、情報共有の円滑化に努めた。また、各館の担当者等が参加する工程会議では、工事・展示関係による車両の進入情報や工事スケジュール等を把握、連絡・調整を行い管理運営を行った。</p> <p><b>【再委託管理】</b></p> <p>●毎月実施している所管課モニタリングにおいて日報や作業写真等の提出を受けており、適切に管理していることが確認できる。</p> <p><b>【担当者のスキルアップ】</b></p> <p>●個人情報保護に係る研修や心肺蘇生法研修等を実施し、スタッフのスキルアップに努めた。</p> <p><b>【安全・安心への取組】</b></p> <p>●新型コロナ感染症対策では、緑地内施設で情報交換や調整を行いながら、マスク着用の徹底や入館時の検温などの呼びかけ、除菌アルコールの設置や注意喚起看板等の設置により、利用者及びスタッフの安全・安心のためきめ細やかな対応・説明を行った。また、災害時や緊急時にスムーズに対応できるよう、緑地内にポスト表示を設置し、管理者と来園者が共通場所を認識できるようにした。指定管理者の企画主催による日本民家園での消防訓練では、屋根葺き替え準備中の古民家を対象とした通常難しいドレンチャーターを使用した実践的な訓練を行った。</p> <p>●多摩警察署や多摩消防署と、防災や防犯に関する情報交換等を日頃から行うことで良好な関係が構築している。</p> <p><b>【コンプライアンス】</b></p> <p>●リスクマネジメント（個人情報保護）に関して各施設でテキストを活用するとともに確認テストを実施し、スタッフのコンプライアンスに関する理解を深めるなど適切な運用に努めた。</p> <p><b>【職員の労働条件・労働環境】</b></p> <p>●スタッフの労働環境の安全衛生や労働条件の確保を行い、業務を適正に実施した。</p> <p><b>【環境負荷の軽減】</b></p> <p>●園内の柵については、園内で間伐したモウソウチクを再利用するとともに、枳形展望台舞台改修工事やピクニック広場木道改修工事に伴う廃棄予定の板材でベンチ補修や木道補修を行うなど環境に配慮した維持管理を行った。</p> <p>●緑地内で発生した稲藁でしめ縄飾りの制作を行ったり、剪定材の有効活用策として薪束を作製し日本民家園の店頭で販売を開始するなど、環境負荷の軽減に向けた取組を積極的に行った。また、日本民家園では、除伐したアズマネザサを市民団体に提供し、製作された蕎麦ザルをふるさと納税の返礼品として活用する他、葺き替え予定の古民家屋根に生えたコケを販売し、同時に苔テラリウムワークショップを開催して施設維持管理に伴う副産物の活用につなげた。</p>					

施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	8	3	4.8
管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
外構・植栽管理(建物)	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	6	3	3.6
清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
樹木等管理	協働による順応的な植生管理、四季の見どころとなる植栽管理が適切に行われているか	2	4	1.6

(評価の理由)

**【施設・設備の保守管理】**

●年間業務計画に基づき適正な業務の遂行に努めており、業務日報等で適切に管理している。また、日頃から設備機器の現状や特徴を把握しつつ機能の維持と着実な運用に努め、不具合や小規模な設備破損が発生した際には、市と協議しながら適切に対応した。岡本太郎美術館が長期休館の際には、壁面等にカビが発生したが、薬剤を使用し、早急に原状回復を行い、施設の安全な利用に努めた。

**【管理記録の整備・保管】**

●毎日の施設巡回により、設備や備品の不具合の早期発見と事故の未然防止に努めるとともに、管理記録を毎日の業務日誌に記録している。

**【外構・植栽管理(建物)】**

●施設ごとの植栽管理方針に基づきしつらえを植栽により演出するとともに、利用者への快適空間を提供する剪定や補植を行った。

**【備品管理】**

●各施設で設備・備品の管理簿を作成し、適切な管理、整頓を行い、消耗品等の補充を適時かつ十分に行った。

**【清掃業務】**

●定期的実施している清掃業務時のみならず、パトロールや通常作業時でも気が付いた点で適宜実施するとともに、新型コロナウイルス感染症対策として東口ビジターセンター2Fの共用スペースなどを受付スタッフ等が定期的に消毒対応を行うなど、清潔な美観と快適環境の維持に努めた。その結果もあり、四半期アンケート調査において、集計を行った全3回で約91%以上の利用者から「清潔だった」以上の評価を得た。

**【警備業務】**

●市や指定管理者が参加する定例の会議等に警備責任者が参加し、緑地内の工事日程等の把握や、それに伴う車両侵入等のスケジュールを共有し、円滑な警備業務に努めた。また、新型コロナウイルス感染症によりホテル観賞会を中止し、ホテルの里を閉鎖した際には、安全確保のため警備巡回に努めた。駐車場の混雑が見込まれる土日には、利用者の安全確保のため事前に警備員を手配し、円滑な入出庫の誘導に努めた。

**【樹木管理】**

●季節の希少種等について適宜、市や市民団体と情報共有を行い図面に記載して管理するとともに、緊急時対応では、伐採時期や伐採木の置き場について自然環境保全管理会議で協議するなど生態系に配慮しながら維持管理を行った。ナラ枯れについては、生田緑地全域の被害調査を行い、自然会議やマネジメント会議で情報共有するとともに、市と役割分担を行い、ナラ枯れ被害にあった樹木を安全確保のため一部伐採した。また、市や市民団体とナラ枯れ処置の検討や勉強会に参加し、継続的に対応策を検討している。

●緊急事態宣言により緑地内施設が臨時休館中の時期には、利用者が快適に利用できるよう傷んでいる芝生への全体的な施肥やエアレーションによる大規模な養生管理を行った。

●民家園内の家屋等に影響のある支障木について、文化財並びに文化財以外に関わるものをそれぞれに優先順位をつけ、市の植生管理計画立案への協力を行った。

#### 4. その他加算点

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
その他加算点	市の政策課題への取組	地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力	5	2	2
	(評価の理由)	<p>多摩区健康づくり推進連絡会議に参加し「働き盛り世代の男性のアルコール摂取と肝臓の健康について」をテーマにリーフレットの作成のための意見交換を行った。また、自主事業では「ヨガ教室」を継続実施し、ソーシャルディスタンスの確保のため定員の見直しを行うとともに時間枠を2クラスに拡充した。</p> <p>事業提案では、利用者・地域住民ニーズの正確な把握により適切な対応を検討するとされ、「生田緑地ママ友会の立ち上げ・会員募集」や「みんなの音楽会の開催」等が取組として例示されており、また、令和2年度行動目標として「ボランティアフェスタの開催」が掲げられていたが、これら提案や行動目標に係る具体的な検討や実施に至らなかった。</p>			

#### 5. 総合評価

評価点合計	72.8(71.6)	評価ランク	B
-------	------------	-------	---

#### ※評価ランクの適用基準

評価ランク	適用基準（評価点合計）
A	総合評価の結果、特に優れていると認められる。（80点以上）
B	総合評価の結果、優れていると認められる。（70点以上80点未満）
C	総合評価の結果、適正であると認められる。（60点以上70点未満） <b>※標準点</b>
D	総合評価の結果、改善が必要であると認められる。（50点以上60点未満）
E	総合評価の結果、問題があり適切な措置を講じる必要がある。（50点未満）

#### 6. 事業執行（管理運営）に対する全体的な評価

- 指定管理期間の3年目においては、新型コロナウイルス感染症拡大による一時的な施設の休館や、感染予防策を実施しての開館という経験のない事態に対し、新型コロナ感染症対策などについて施設間で十分に調整を行いながら迅速かつ的確に対応し、安全・安心な施設運営に寄与した。緑地内施設が臨時休館中の際には、傷んでいる芝生への全体的な施肥やエアレーションによる大規模な養生管理の実施や、日本民家園スタッフ全員で園内植栽管理業務を行うなど、利用者サービス向上に向けた取り組みを行った。また、近隣の方に喜んでもらえる商品開発・展開へと方向転換し、水引や着物の端切れを利用したアクセサリ商品の開発や政府支給マスクの藍染体験プログラムの開発により収入の確保に努め、新型コロナ感染症の情勢を踏まえた順応的な管理運営を行った。
- 各施設のイベント情報や四季折々の情報について各種媒体により積極的に情報発信し、Twitterのフォロワー数や新聞等への露出機会を増やした。指定管理者の構成企業が東急系列である関係性を活かし東急電鉄の市内各駅への広告の無料掲載や、岡本太郎美術館でのTwitter広告を発出する取組など新たな広報展開により、生田緑地全体の魅力発信を行った結果、施設認知度向上に繋がり、緊急事態宣言に伴う施設臨時閉鎖の影響が発生したにもかかわらず、生田緑地では前年度入園者数より多い801,859人が来園したものと評価できる。

#### 7. 来年度の事業執行（管理運営）に対する指導事項等

- 今後も新型コロナ感染症対策を的確に行い、安心・安全な施設・公園として利用していただけるよう、施設の維持管理・運営を日々改善を重ねて欲しい。また、平成31年2月策定の「川崎市持続可能な開発目標(SDGs)推進方針」では、生田緑地の管理運営の取り組みのゴール、ターゲットとして11(11.7)、15(15.4)、17(17.17)を掲げております。生田緑地ビジョンの基本理念である「豊かな自然・文化・人・まちがともに息づき緑が広がる持続可能な生田緑地の実現」に向けて、SDGsのゴール、ターゲットを踏まえながら取り組みをお願いしたい。
- 新たな収益向上に向けた取り組みを継続した上で、効果的かつ必要な経費の支出を確実に実施し、引き続き順応的な管理運営を行うようお願いしたい。
- SNSをはじめとする活発な広報の成果が上がってきており、今後も新たな試みを含めながら新規の開拓と同時にリピーターの確保に努めてほしい。